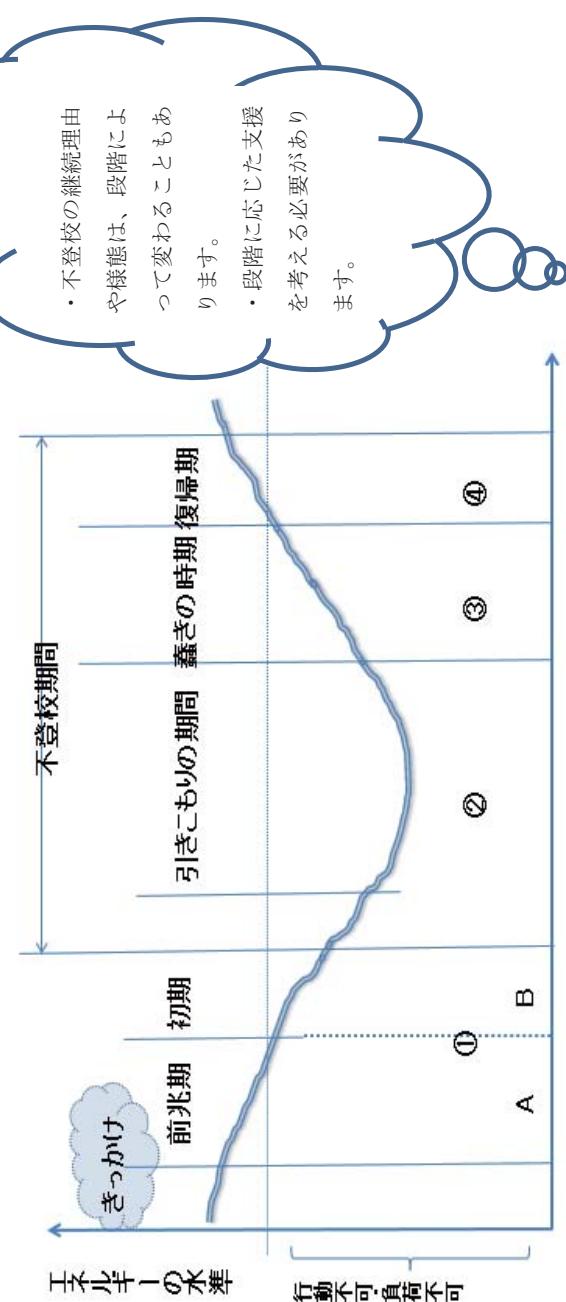


## ◇不登校の段階モデル

※このモデルに当てはまらない事例もある。



(参考：佐賀県教育センター「子どもの支援者であるすべての教師のために」)

①A 前兆期	表情が暗くなる／やや元気がなくなる／教室でボツンとしている／保健室に通う／気持ちの上で苦しめられる
②B 初期	日常生活を送るのが辛くなつてくる／登校渋りや遅刻早退が増える
③引きこもりの期間	情緒不安定／身体症状／生活リズムの乱れ／学校の話題に拒否感
④巣きの時期	日常生活リズム安定（不登校状態も安定）／精神的な安定／活動への意欲が生まれる…周囲から見る停滯感がある。二次的なストレス…勉強の遅れ／友人関係の希薄化
⑤復帰期	自分から何か行動を始められる

## ◇理解から支援へ～スマートステップ～

高い山に登る際に、いきなり頂上をめざすと、長い道のりがイメージされて登れないと思ってしまうことがある。生徒の状況に合わせて小さな目標を立てて、1つずつ無理なく達成する体験を積み重ねることが自信につながる。

(例) 朝15分起きる、花の世話を学校へ来る、放課後登校、別室登校

【参考文献】「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～」(教育相談等に関する調査研究協力者会議H29.1)

「不登校児童生徒への支援に関する最終報告」(文部科学省H28.1)

生徒指導リーフ「不登校の予防」「絆づくりと居場所づくり」(国立教育研究所)

発行：平成29年3月31日 大阪府教育センター 教育相談室  
作成 大阪府高等学校適応指導教室 不登校支援プロジェクトチーム委員会（敬称略）  
大阪府高等学校教育相談指導教諭等 川村美樹、小寺五三子、親道昭、坊内明美、村田武司、森本光展  
大阪府教育センター教育企画部教育相談室教育相談グループ 上本雅也 村田知子

## 不登校生徒の理解～高校生の場合～

その1 理解編  
その2 予防編  
その3 支援編

### 不登校生徒の理解が支援の第1歩！

#### 必要な支援の目標は、背景理解と段階理解で見えてくる

～インテグス～

- ◊ 不登校とは？～不登校は「問題行動」ではなく、どの生徒にも起こりうること～
- ◊ 大阪府の不登校の現状は？
- ◊ 理解の一步は生徒の声を聞くことから！
- ◊ 不登校の要因（背景）は、多様化・複雑化している
- ◊ 背景理解と段階理解から支援へ
- ◊ スモールステップ

#### ◇不登校とは？

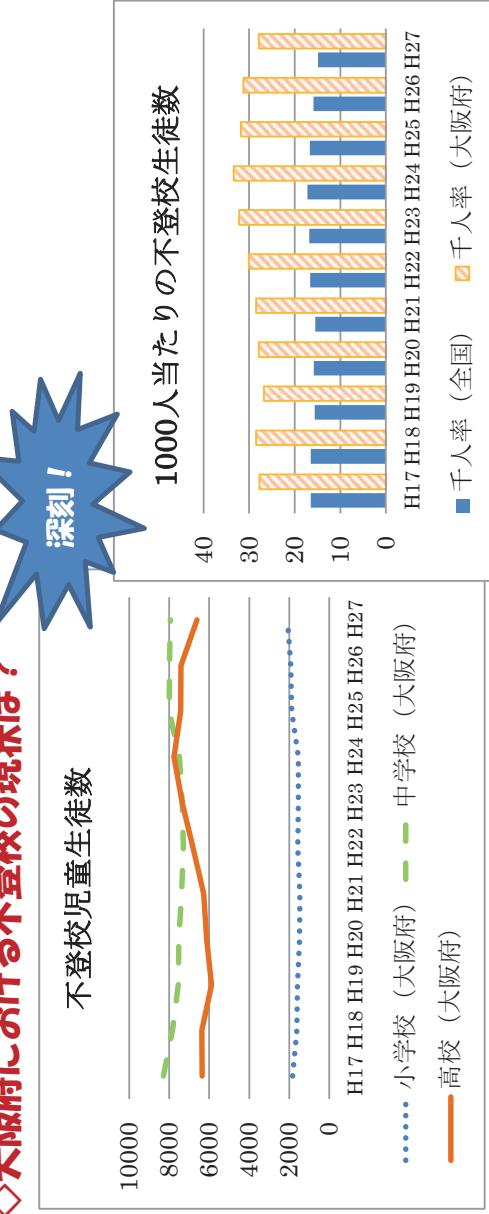
- （文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より）
- ▶ 何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的原因・背景により、登校しない、あるいははしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由を除いたもの。
  - ▶ ◇不登校をどうたらえればいいの？ (H28「不登校児童生徒への支援に関する最終報告」より)
  - ▶ 児童生徒本人に起因する特有の事情によって起こるものとして全てをとらえるのではなく、取り巻く環境によつては、どの生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。また、不登校という状況が継続し、結果として十分な支援が受けられない状況が続くことは、自己肯定感の低下を招くなど、本人の進路や社会的自立のために望ましいことではない。
  - ▶ 多様な要因・背景により、結果として不登校状態になつているということであり、その行為を「問題行動」と判断してはいけない。

#### ◇高校は義務教育ではないけれど…

- ▶ 不登校生徒や中退者は、ひきこもりの予備群となりやすい。ひきこもりになつてしまふと学校や社会とのつながりが切れてしまつことが、社会の大きな課題になつている。
- （参考）府立学校（全日制）における不登校のうち中途退学になつたのは25.5%、留年になつたのは9.8% (H27大阪府)
- ▶ 高校進学率が9割を超える中、高校時代は進路形成において非常に重要な時期であり、不登校が長期化すると学業の遅れや進路選択・社会的自立におけるリスクが高まる。不登校の未然防止や早期発見、早期対応は非常に重要である。

## ◇大阪府における不登校の現状は？

### ◇不登校のきっかけ・継続理由



高等学校不登校生徒数：6603人（「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より）

1000人あたりの不登校生徒数：27.9人（参）全国：14.9人、中退生徒数：4725人 中退率1.9%（参）全国中退率：1.4%

### ◇理解の一歩は生徒の声を聞くことから！

小学校の時にいじめられてた。それから人がひそひそ話しているのが苦手。集まると、自分の悪口言つてるんちやうかと思ってしまう。自信がないから自分から話しかけられないし、集団が怖い。（高3女子）

移動教室の時とか気が付いたら、いつもおいて行かれて一人になってる。みんなペースあわへん。話しても、行動見ても理解でけへん。なんでそこで笑うのか、そんな行動とかとか。授業中もノートとるのに必死で先生が何言うのかほとんどわからん。小学校の頃は、自分が宇宙人やらわからなくて仕方ないって思つてスルーしてきたけど、もう限界や。私はじめでないなーと思ったら学校に行くの嫌になる。（高2女子）

クラスの子は、勉強も運動も何でもできる。僕は何をやってもだめ。努力してもかなわない。もう疲れた。今は何もしたくない。（高1男子）

### ◇不登校の要因（背景理解）



ソーシャルサポートの弱さ  
友人・教職員・家族 等

▶不登校の要因や背景は多様化・複雑化している。また、学校に対する社会全体の意識の変化の影響も考えられる。

▶不登校状態が継続すると、時間の経過につれて要因や背景も変化し、学習の遅れや生活リズムの乱れによりますます解消が困難になることが多い。

生徒理解と支援のための観点を示しています。表面に現れている行動（例えば非行）だけではなく隠れているものも意識することが大切です

	具体例	
学校生活	入学、転編入学、進級時の不適応 友人関係 学校のきまり等をめぐる問題 に学業の不振 係 係 係 係 状 状 況	新しい環境に合わない、希望していなかった等 いじめを受けている、けんか、クラスに馴染むことができない、他者にどう思われているのかが怖い等 授業がわからない、試験が苦手、学習意欲ががくなつた、進級に対する不安等 何をしたいかわからない、働きたくない、理想の進路に届かない等 教職員との関係 教職員との人間関係、強い叱責や注意等 顧問や部員との人間関係等、経済的環境、指導の厳しさ等 暴力等を原因とする排除、学校の雰囲気に馴染めない等 過保護、過干渉、親からの心理的独立ができない、愛着障がい、親の叱責・態度への反発、寂しさ、親との共依存等 親の不和、祖父母と親の不和、兄弟姉妹の不和等 精神疾患、家族の依存症、身体的疾患、親の反社会的な思考や行動、養育力のなさ等 身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待、経済的虐待 失業、負債、生活保護、親の不在等 親の単身赴任、家族の死亡、離婚等 家庭崩壊、過度の家事負担等 病気やケガによる連続欠席、長期入院等 遊びためや非行グループに入るなどにより登校しない等 学習意欲に乏しくなく登校しない、登校しないことへの罪悪感が少ない、逆にに行ったり強く催促すると登校するが長続きしない、人生の目標や将来への夢をもたない等 登校の意志はあるが登校できない。漠然とした不安を訴え登校しないなど、不安を中心とした情緒的な混乱によつて登校できない、自己の性への違和感等 学校へ行く意義を認めず、自分の好きな方向を選んで登校しない等 統合失調症、うつ病、精神症などの発病により登校できない等 人間関係がうまく築けない等 完璧主義、はじめてプライドが高い、自己評価が低い等 失敗を受け入れられない、すぐに諦めてなげやりになる等 昼夜逆転、インターネットやゲーム依存等 授業内容の理解が難しい、友人とコミュニケーションがうまくいかない等のために指導や非難を受け、教室を飛び出す等の行動にててしまい、教室での居場所を失つてしまい、学校生活への苦手意識が高まってしまう等 過剰適応等 きっかけや理由が複合している生徒が不登校になるわけではないが、これらの生徒の学業や生活上の課題を把握し、早期に必要な支援を行うことが重要である。
複合	発達障がいや虐待を受けている生徒が主であるかを決めがたい	